

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	人体の構造と機能及び疾病
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	人の成長・発達や心身機能と身体構造の概要について学ぶ。国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要、健康の概念について理解する。疾病と障害の概要及びリハビリテーションの概念と範囲について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心身機能と身体構造及び様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 2. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する。 ※特に社会福祉士として求められる知識として、疾病や障害及びリハビリテーションに関する理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「医学一般：人体の構造と機能及び疾病」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（看護師の資格を有し、病院・福祉施設等の現場にて15年以上）を有する者
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 人の成長・発達（身体の成長・発達、精神の成長・発達、老化） 2 心身機能と身体構造の概要（身体部位の名称、各器官の構造と機能） 3 疾病と障害の概要①（生活習慣病と未病、悪性腫瘍、脳血管疾患、心疾患） 4 疾病と障害の概要②（高血圧、糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、血液疾患と膠原病） 5 疾病と障害の概要③（腎臓疾患、泌尿器系疾患、骨・関節疾患、目・耳の疾患） 6 疾病と障害の概要④（感染症、神経疾患と難病、先天性疾患、その他の高齢者に多い疾病） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 疾病と障害の概要⑤（視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由） 9 疾病と障害の概要⑥（内部障害、知的障害、発達障害、認知症） 10 疾病と障害の概要⑦（高次脳機能障害、精神障害） 11 リハビリテーションの概要①（リハビリテーションとは、リハビリテーションにおける障害評価） 12 リハビリテーションの概要②（リハビリテーションの諸段階、リハビリテーションにかかわる専門職、リハビリテーションの四つの側面） 13 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要（国際障害分類（ICIDH）から国際生活機能分類（ICF）への変遷、心身機能と身体構造・活動・参加の概要、背景因子、健康状態と生活機能低下の概念） 14 健康の捉え方（健康の概念とプライマリヘルスケア、日本の人口統計、人口の高齢化と家族、国民健康づくり対策、感染症対策、産業保健、歯科保健） 15 確認テスト2・採点・解説・やり直し 16 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	心理学理論と心理的支援	
実務家教員授業	○	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必須	
授業方法	講義	
授業時間	30時間	
授業回数	15回	
授業概要	人の心理学的理解及び成長・発達と心理との関係を学び、日常生活と心の健康に関して理解する。また、心理検査やカウンセリングなどの心理的支援の方法と実際について理解する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	1. 心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。 2. 人の成長・発達と心理との関係について理解する。 3. 日常生活と心の健康との関係について理解する。 4. 心理的支援の方法と実際について理解する。 ※社会福祉士として求められる基本的な心理学的知識が身につけられている。カウンセリングや心理的支援についての理解が深められている。	
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「心理学：心理学理論と心理的支援」	
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（認定心理士・専門健康心理士・精神保健福祉士・社会福祉士等の資格を有し、病院・福祉施設等の現場にて10年以上）を有する者。	
授業計画	1	人の心理学的理解①（心理学とは、性格）
	2	人の心理学的理解②（感情）
	3	人の心理学的理解③（欲求と動機づけ）
	4	人の心理学的理解④（感覚・知覚・認知）
	5	人の心理学的理解⑤（学習・記憶）
	6	人の心理学的理解⑥（知能・創造性・思考）
	7	人の成長・発達と心理（発達の概念）
	8	確認テスト1・採点・解説・やり直し
	9	日常生活と心の健康①（人間環境と集団）
	10	日常生活と心の健康②（対人交流とコミュニケーション）
	11	日常生活と心の健康③（適応とストレス）
	12	心理的支援の方法と実際①（面接・見立て・心理療法）
	13	心理的支援の方法と実際②（脳と心）
	14	確認テスト2・採点・解説・やり直し
	15	まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。	
備考		

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会理論と社会システム
実務家教員授業	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	人々をとりまく現代社会が社会理論によってどのように捉えることができるのかを学習し、家族や生活に関して社会学の視点から学習する。また、社会的孤立や社会病理に関して学び、具体的な社会問題に関して理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会理論による現代社会の捉え方を理解する。 2. 生活について理解する。 3. 人と社会の関係について理解する。 4. 社会問題について理解する。 ※特に家族や世帯の概念、生活についての理解が深められている。社会問題の捉え方と具体的な社会問題に関して理解されており、社会福祉士として求められる社会に関する基本的な視点が身につけられている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「社会学：社会理論と社会システム」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会の理解①（社会変動と人口） 2 現代社会の理解②（社会システム） 3 現代社会の理解③（法と社会システム） 4 現代社会の理解④（経済と社会システム） 5 生活の理解①（地域） 6 生活の理解②（家族） 7 生活の理解③（生活のとらえ方） 8 確認テスト1・採点・解説・やり直し 9 人と社会の関係①（社会的行為、社会的役割） 10 人と社会の関係②（社会集団と組織、社会的ジレンマ） 11 人と社会の関係③（社会関係資本と社会的連帯） 12 社会問題の理解①（社会問題のとらえ方） 13 社会問題の理解②（日本社会と社会問題、共生社会と権利） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	現代社会と福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、現代社会における福祉制度の意義や理論を理解する。福祉制度と福祉政策との関係を理解し、福祉政策におけるニーズと資源、課題について学ぶ。また福祉政策の構成要素として、政府、市場、家族、個人の役割について理解するとともに、福祉政策と教育政策、住宅政策、労働政策との関係について理解する。相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。 6. 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 ※福祉政策と関連政策について理解されており、相談援助活動を行うにあたって求められる福祉制度と福祉政策に関する基礎的知識が習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「社会福祉原論：現代社会と福祉」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 現代社会における福祉制度と福祉政策①（社会福祉の拡大と限定、福祉と福祉政策） 2 現代社会における福祉制度と福祉政策②（福祉政策とその実体化、社会福祉の専門職） 3 現代社会における福祉制度と福祉政策③（福祉および社会福祉の意味、公共政策のなかの福祉政策） 4 現代社会における福祉制度と福祉政策④（社会政策の体系と社会福祉政策、福祉政策の体系） 5 福祉の原理をめぐる理論と哲学①（市場の論理と倫理） 6 福祉の原理をめぐる理論と哲学②（福祉の思想、ロールズとセンに学ぶもの） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 福祉制度の発達過程①（近代化と福祉政策） 9 福祉制度の発達過程②（戦後改革と高度経済成長期の福祉政策） 10 福祉制度の発達過程③（福祉政策の調整と進展） 11 福祉制度の発達過程④（1990年代以降の福祉政策） 12 福祉政策におけるニーズと資源①（必要とは何か、必要と福祉政策） 13 福祉政策におけるニーズと資源②（必要の判定、福祉政策の資源） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	現代社会と福祉
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解し、現代社会における福祉制度の意義や理論を理解する。福祉制度と福祉政策との関係を理解し、福祉政策におけるニーズと資源、課題について学ぶ。また福祉政策の構成要素として、政府、市場、家族、個人の役割について理解するとともに、福祉政策と教育政策、住宅政策、労働政策との関係について理解する。相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における福祉制度の意義や理念、福祉政策との関係について理解する。 2. 福祉の原理をめぐる理論と哲学について理解する。 3. 福祉政策におけるニーズと資源について理解する。 4. 福祉政策の課題について理解する。 5. 福祉政策の構成要素（福祉政策における政府、市場、家族、個人の役割を含む。）について理解する。 6. 福祉政策と関連政策（教育政策、住宅政策、労働政策を含む。）の関係について理解する。 7. 相談援助活動と福祉政策との関係について理解する。 ※福祉政策と関連政策について理解されており、相談援助活動を行うにあたって求められる福祉制度と福祉政策に関する基礎的知識が習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「社会福祉原論：現代社会と福祉」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16 福祉政策の構成要素①（福祉政策における個人・家族・市場・政府・地域） 17 福祉政策の構成要素②（福祉政策の手法と政策決定過程・評価） 18 福祉政策の構成要素③（福祉政策の機軸としての社会福祉、社会福祉の構成） 19 福祉政策の構成要素④（社会福祉の制度体系、社会福祉の供給・提供システム、社会福祉の機能） 20 福祉政策の構成要素⑤（社会福祉制度の体系） 21 福祉政策の構成要素⑥（福祉サービスの供給） 22 確認テスト3・採点・解説・やり直し 23 福祉政策と関連政策①（所得政策と福祉政策、保健医療と福祉政策、教育と福祉政策） 24 福祉政策と関連政策②（住宅と福祉政策、雇用と福祉政策、人権擁護と福祉政策） 25 相談援助活動と福祉政策の関係①（相談援助の原則・視点・考え方と方法） 26 相談援助活動と福祉政策の関係②（地域福祉への展開） 27 福祉政策の課題①（福祉政策の課題と展望） 28 福祉政策の課題②（福祉政策の国際比較） 29 確認テスト4・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会調査の基礎
実務家教員授業	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	社会調査の意義と目的、統計法の概要について学ぶ。社会調査における倫理と個人情報保護の視点から留意すべき点について理解する。量的調査の種類と方法、質問紙の作成方法と留意点、調査法の配布と回収、調査の集計と分析に関して学ぶ。質的調査の方法として、観察法と面接法の概要及び記録とデータ整理の方法について学ぶ。また社会調査の実施にあたってITの活用方法に関して学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 社会調査の意義と目的及び方法の概要について理解する。 2. 統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。 3. 量的調査の方法及び質的調査の方法について理解する。 ※会福祉における社会調査の意義と目的が理解されている。社会調査における倫理や個人情報保護に関して理解が深められている。統計法の概要、量的調査及び質的調査の概要と方法、留意点について理解されており、社会調査の実施にあたってITがどのように活用されているのか、その方法についても理解されている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「社会調査の基礎」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会調査の意義と目的①（社会福祉と社会調査） 2 社会調査の意義と目的②（社会調査の概要） 3 統計法（統計法の概要） 4 社会調査における倫理、社会調査における個人情報保護（社会調査における倫理と個人情報保護） 5 社会調査の実施にあたってのITの活用方法 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し 7 量的調査の方法①（量的調査の特徴と種類） 8 量的調査の方法②（調査票（質問紙）の作成方法と留意点、調査票の配布と回収） 9 量的調査の方法③（量的調査におけるデータ解析①） 10 量的調査の方法④（量的調査におけるデータ解析②） 11 質的調査の方法①（質的調査の特徴と種類、調査設計） 12 質的調査の方法②（対象者の選定と調査手続、調査手法） 13 質的調査の方法③（質的調査における調査の実施、質的調査におけるデータの分析、質的調査における発表・報告） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助の基盤と専門職
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解し、相談援助の概念、範囲、理念について学ぶ。また権利擁護の意義及び相談援助に係る専門職倫理について理解する。総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。 2. 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 3. 相談援助の概念と範囲について理解する。 4. 相談援助の理念について理解する。 5. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 6. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。 7. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 ※相談援助の概念、理念、範囲について学び、権利擁護に関する理解が深められている。社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義及び専門職倫理について理解する。総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助の基盤と専門職」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会福祉士の役割と意義、精神保健福祉士の役割と意義 2 相談援助の概念と範囲①（ソーシャルワークの概念） 3 相談援助の概念と範囲②（ソーシャルワークの構成要素） 4 相談援助の概念と範囲③（ソーシャルワークの源流） 5 相談援助の概念と範囲④（ソーシャルワークの基礎確立期） 6 相談援助の概念と範囲⑤（ソーシャルワークの発展期） 7 相談援助の概念と範囲⑥（ソーシャルワークの展開期） 8 相談援助の概念と範囲⑦（ソーシャルワークの統合化とジェネラリスト・ソーシャルワーク） 9 確認テスト1・採点・解説・やり直し 10 相談援助の理念①（ソーシャルワーク実践と価値） 11 相談援助における権利擁護の意義（ソーシャルワーク実践と権利擁護） 12 相談援助の理念②（クライアントの尊厳と自己決定） 13 相談援助の理念③（ノーマライゼーションと社会的包摂） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助の基盤と専門職
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義について理解し、相談援助の概念、範囲、理念について学ぶ。また権利擁護の意義及び相談援助に係る専門職倫理について理解する。総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉士の役割（総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発含む）と意義について理解する。 2. 精神保健福祉士の役割と意義について理解する。 3. 相談援助の概念と範囲について理解する。 4. 相談援助の理念について理解する。 5. 相談援助における権利擁護の意義と範囲について理解する。 6. 相談援助に係る専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。 7. 総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 ※相談援助の概念、理念、範囲について学び、権利擁護に関する理解が深められている。社会福祉士及び精神保健福祉士の役割と意義及び専門職倫理について理解する。総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助の基盤と専門職」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16 相談援助に係る専門職の概念と範囲①（相談援助専門職の概念） 17 相談援助に係る専門職の概念と範囲②（相談援助専門職の範囲） 18 専門職倫理と倫理的ジレンマ①（専門職倫理の概念、倫理綱領の意義と内容） 19 専門職倫理と倫理的ジレンマ②（ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマ） 20 確認テスト3・採点・解説・やり直し 21 総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容①（総合的かつ包括的な援助の動向） 22 総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容②（地域を基盤としたソーシャルワークの視座） 23 総合的かつ包括的な援助と多職種連携（チームアプローチ含む）の意義と内容③（ジェネラリスト・ソーシャルワークの特質） 24 相談援助における専門的機能①（専門的機能の展開、予防機能） 25 相談援助における専門的機能②（新しいニーズへの対応機能） 26 相談援助における専門的機能③（総合的支援機能） 27 相談援助における専門的機能④（権利擁護機能） 28 相談援助における専門的機能⑤（社会資源開発機能） 29 確認テスト4・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助の理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	120時間
授業回数	60回
授業概要	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論及び様々な実践モデルについて学ぶ。相談援助の対象を理解し、相談援助の過程における知識と技術を学ぶ。事例研究及び事例分析を行い、権利擁護活動を含む相談援助の実際を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。） 4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。 <p>※相談援助における理論及びモデルに関して学び、相談援助のそれぞれの過程における知識と技術に関して理解している。事例分析の意義と留意点について学び、相談援助の実際について、権利擁護活動も含めた理解が深まっている。</p>
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助の理論と方法 I、II」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助とは 2 相談援助の構造と機能 3 人と環境の相互作用 4 相談援助における援助関係①（援助関係の意義、援助関係の形成プロセスに影響する要因） 5 相談援助における援助関係②（援助構造と援助関係、援助関係の質と自己覚知、援助関係とミクロからマクロ実践領域） 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し 7 相談援助の過程①（相談援助の展開過程の流れ） 8 相談援助の過程②（ケース発見、受理面接（インテーク）） 9 相談援助の過程③（問題把握からニーズ確定まで） 10 相談援助の過程④（ニーズ確定から事前評価（アセスメント）まで） 11 相談援助の過程⑤（事前評価（アセスメント）から支援標的・目標設定まで） 12 相談援助の過程⑥（支援標的・目標設定から支援の計画（プランニング）まで） 13 相談援助の過程⑦（支援の計画（プランニング）から支援の実施まで） 14 相談援助の過程⑧（経過観察（モニタリング）） 15 確認テスト2・採点・解説・やり直し
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助の理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	120時間
授業回数	60回
授業概要	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論及び様々な実践モデルについて学ぶ。相談援助の対象を理解し、相談援助の過程における知識と技術を学ぶ。事例研究及び事例分析を行い、権利擁護活動を含む相談援助の実際を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。） 4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。 ※相談援助における理論及びモデルに関して学び、相談援助のそれぞれの過程における知識と技術に関して理解している。事例分析の意義と留意点について学び、相談援助の実際について、権利擁護活動も含めた理解が深まっている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助の理論と方法 I、II」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16 相談援助の過程⑨（再アセスメントと支援の強化） 17 相談援助の過程⑩（支援の終結と効果測定、評価、アフターケア） 18 相談援助の過程⑪（予防的対応とサービス開発） 19 アウトリーチ（相談援助のためのアウトリーチの技術） 20 相談援助のための契約の技術 21 確認テスト3・採点・解説・やり直し 22 相談援助のためのアセスメントの技術 23 相談援助のための介入の技術 24 相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術①（経過観察（モニタリング）、再アセスメント） 25 相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術②（効果測定、評価とサービス開発） 26 相談援助のための面接技術（面接の意義と目的、面接の方法と留意点） 27 記録①（記録の意義とその活用目的、記録の種類と活用） 28 記録②（記録の方法とIT化、記録の技術の実際例と今後の課題） 29 相談援助のための交渉の技術 30 確認テスト4・採点・解説・やり直し
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助の理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	120時間
授業回数	60回
授業概要	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論及び様々な実践モデルについて学ぶ。相談援助の対象を理解し、相談援助の過程における知識と技術を学ぶ。事例研究及び事例分析を行い、権利擁護活動を含む相談援助の実際を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。） 4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。 ※相談援助における理論及びモデルに関して学び、相談援助のそれぞれの過程における知識と技術に関して理解している。事例分析の意義と留意点について学び、相談援助の実際について、権利擁護活動も含めた理解が深まっている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助の理論と方法 I、II」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 31 相談援助の対象（相談援助における対象の理解） 32 ケースマネジメントとケアマネジメント（ケースマネジメント（ケアマネジメント）） 33 集団を活用した相談援助（グループを活用した相談援助、自助グループを活用した相談援助） 34 ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。）①（コーディネーションの目的と意義、コーディネーションの方法・技術・留意点） 35 ネットワーキング（相談援助における多職種・多機関との連携を含む。）②（ネットワーキングの意義と目的、ネットワーキングの方法、地域福祉を推進するための総合的なネットワークの形成とシステム化） 36 相談援助における社会資源の活用・調整・開発 37 確認テスト5・採点・解説・やり直し 38 様々な実践モデルとアプローチ①（実践モデルとその意味、ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル） 39 様々な実践モデルとアプローチ②（治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル） 40 様々な実践モデルとアプローチ③（心理社会的アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ） 41 様々な実践モデルとアプローチ④（課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ） 42 様々な実践モデルとアプローチ⑤（エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、その他の実践アプローチ） 43 スーパービジョン（スーパービジョンとコンサルテーションの技術） 44 確認テスト6・採点・解説・やり直し 45 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助の理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	120時間
授業回数	60回
授業概要	相談援助における人と環境との相互作用に関する理論及び様々な実践モデルについて学ぶ。相談援助の対象を理解し、相談援助の過程における知識と技術を学ぶ。事例研究及び事例分析を行い、権利擁護活動を含む相談援助の実際を学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助における人と環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。（介護保険法による介護予防サービス計画、居宅サービス計画や施設サービス計画及び障害者自立支援法によるサービス利用計画についての理解を含む。） 4. 相談援助における事例分析の意義や方法について理解する。 5. 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）について理解する。 ※相談援助における理論及びモデルに関して学び、相談援助のそれぞれの過程における知識と技術に関して理解している。事例分析の意義と留意点について学び、相談援助の実際について、権利擁護活動も含めた理解が深まっている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助の理論と方法 I、II」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 46 ケースカンファレンスの技術 47 相談援助と個人情報の保護の意義と留意点（相談援助における個人情報の保護） 48 相談援助における情報通信技術（IT）の活用（相談援助における情報通信技術（ICT）の活用） 49 確認テスト7・採点・解説・やり直し 50 事例研究・事例分析（事例研究の目的と意義・事例研究の方法と留意点、事例分析の目的と意義、事例分析の方法と留意点） 51 事例分析①（虐待の事例） 52 事例分析②（家庭内暴力の事例） 53 事例分析③（集団に対する相談援助事例） 54 事例分析④（社会的排除の事例） 55 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）①（虐待の事例） 56 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）②（家庭内暴力の事例） 57 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）③（集団に対する相談援助事例） 58 相談援助の実際（権利擁護活動を含む。）④（社会的排除の事例） 59 確認テスト8・採点・解説・やり直し 60 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	地域福祉の理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	地域福祉の基本的考え方、主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。地域福祉における多職種・多機関との連携を含むネットワーキングについて理解し、地域福祉の推進方法について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。 2. 地域福祉の主体と対象について理解する。 3. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 4. 地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。 5. 地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。 ※授業の目的とねらいが理解されている。ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域における福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、福祉サービスの評価方法と実際について理解されている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「地域福祉論：地域福祉の理論と方法」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 地域福祉の基本的考え方①（地域福祉の発展過程①） 2 地域福祉の基本的考え方②（地域福祉の発展過程②） 3 地域福祉の基本的考え方③（地域福祉理論と地域自立生活支援） 4 地域福祉の基本的考え方④（地域の捉え方と福祉圏域） 5 地域福祉の主体と対象①（地域福祉の主体形成、福祉教育の歩み） 6 地域福祉の主体と対象②（福祉教育の概要と内容） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民①（行政組織と民間組織の役割と実際、地方分権化と地域福祉計画） 9 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民②（社会福祉協議会、社会福祉法人の役割と実際） 10 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民③（特定非営利活動法人、ボランティア活動、民生委員・児童委員・保護司、コミュニティビジネスの役割と実際） 11 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民④（コミュニティソーシャルワークの考え方、展開とシステム） 12 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民⑤（コミュニティソーシャルワークの方法、チームアプローチ） 13 地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民⑥（専門職と住民の関係） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	地域福祉の理論と方法
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	地域福祉の基本的考え方、主体と対象、地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。地域福祉における多職種、多機関との連携を含むネットワーキングについて理解し、地域福祉の推進方法について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等を含む。）について理解する。 2. 地域福祉の主体と対象について理解する。 3. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 4. 地域福祉におけるネットワーキング（多職種・多機関との連携を含む。）の意義と方法及びその実際について理解する。 5. 地域福祉の推進方法（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む。）について理解する。 ※ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、地域における福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、福祉サービスの評価方法と実際について理解されている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「地域福祉論：地域福祉の理論と方法」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16 地域福祉の推進方法①（住民の参加と方法①） 17 地域福祉の推進方法②（住民の参加と方法②、ソーシャルサポートネットワーク①） 18 地域福祉の推進方法③（ソーシャルサポートネットワーク②） 19 地域福祉の推進方法④（地域における社会資源の活用・調整・開発①、社会資源の概要、活用方法とコーディネート） 20 地域福祉の推進方法⑤（地域における社会資源の活用・調整・開発②、福祉サービスの開発） 21 地域福祉の推進方法⑥（地域における福祉ニーズの把握方法と実際①、地域におけるアウトリーチの意義） 22 地域福祉の推進方法⑦（地域における福祉ニーズの把握方法と実際②、質的、量的な福祉ニーズの把握方法と実際） 23 確認テスト3・採点・解説・やり直し 24 地域福祉の推進方法⑧（地域トータルケアシステムの構築と実際①、地域トータルケアシステムの必要性と考え方） 25 地域福祉の推進方法⑨（地域トータルケアシステムの構築と実際②、展開方法と実際） 26 地域福祉の推進方法⑩（地域における福祉サービスの評価方法と実際①、福祉評価のシステム） 27 地域福祉の推進方法⑪（地域における福祉サービスの評価方法と実際②、福祉サービス評価の方法と実際） 28 日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方（イギリス アメリカ） 29 確認テスト4・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	福祉行財政と福祉計画
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	国、都道府県、市町村と相互の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割など福祉の行財政の実施体制について学び、福祉行財政の動向について理解する。福祉計画の意義と目的、主体と方法及び実際について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 福祉の行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む。）について理解する。 2. 福祉行財政の実際について理解する。 3. 福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解する。 ※福祉行財政及び福祉計画について理解が深まっている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「福祉行財政と福祉計画」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 福祉行財政の動向①（福祉と制度、法制度の展開） 2 福祉行財政の動向②（社会福祉基礎構造、福祉計画の概要） 3 福祉行政の実施体制①（福祉行政） 4 福祉行政の実施体制②（福祉財政） 5 福祉行政の実施体制③（福祉行政の組織、団体と専門職の役割） 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し 7 福祉計画の意義と目的 8 福祉計画の主体と方法①（福祉計画の基本的視点、過程と留意点） 9 福祉計画の主体と方法②（福祉計画におけるニーズの把握、評価） 10 福祉計画の主体と方法③（福祉計画における住民参加） 11 福祉計画の実際①（福祉計画の事例研究の視点、老人福祉計画、介護保険事業計画） 12 福祉計画の実際②（障害者計画、障害福祉計画） 13 福祉計画の実際③（次世代育成支援行動計画、地域福祉計画） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	福祉サービスの組織と経営
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	福祉サービスに係る組織や団体の概要について理解する。 福祉サービスの組織と経営の基礎理論及び会計管理等の実際について理解する。 福祉サービスの管理運営について、サービス管理や苦情対応、人事・労務管理などに関する理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治会など）について理解する。 2. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。 3. 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。 ※福祉サービスの組織と経営に関する基礎理論を学ぶとともに、実際についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「福祉サービスの組織と経営」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（経済学修士・社会福祉学博士の学位を有し、大学での研究・講師等を担いながら、福祉施設等の現場にて10年以上）を有する者。
授業計画	1 福祉サービスに係る組織や団体①（組織・管理・経営） 2 福祉サービスに係る組織や団体②（社会福祉法人） 3 福祉サービスに係る組織や団体③（特定非営利活動法人） 4 福祉サービスに係る組織や団体④（その他の組織や団体） 5 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論①（戦略、事業計画） 6 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論②（組織、管理運営の基礎理論） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 福祉サービス提供組織の経営と実際①（サービス管理、サービスの質の評価①） 9 福祉サービス提供組織の経営と実際②（サービスの質の評価②、苦情対応とリスクマネジメント） 10 福祉サービス提供組織の経営と実際③（サービス提供のあり方の方向性） 11 福祉サービスの管理運営の方法と実際①（人事管理と労務管理） 12 福祉サービスの管理運営の方法と実際②（会計管理と財務管理） 13 福祉サービスの管理運営の方法と実際③（情報管理） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会保障
実務家教員授業	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	少子高齢化や労働環境の変化などによる現代社会の社会保障制度の課題について学ぶ。社会保障の概念、理念、対象について理解する。年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労災保険制度、雇用保険制度、社会福祉制度、生活保護制度、家族手当制度に関して、制度の目的、対象、給付内容、財源構成などに関して学び、特に年金保険制度と医療保険制度に関しては具体的内容も学ぶ。先進諸国における社会保障制度の概要を概観する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。 2. 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 4. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 5. 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 6. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 <p>※少子高齢化や労働環境の変化などによる現代社会の社会保障制度の課題について学ぶ。社会保障の概念、理念、対象について理解する。年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労災保険制度、雇用保険制度、社会福祉制度、生活保護制度、家族手当制度に関して、制度の目的、対象、給付内容、財源構成などに関して学び、特に年金保険制度と医療保険制度に関しては具体的内容も学ぶ。先進諸国における社会保障制度の概要を概観する。</p>
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「社会保障論」
特記	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 社会保障の概念や対象及びその理念①（現代社会と社会保障） 2 社会保障の概念や対象及びその理念②（欧米における社会保障の歴史的展開） 3 社会保障の概念や対象及びその理念③（日本における社会保障の歴史的展開） 4 社会保険と社会扶助の関係①（社会保障制度の体系） 5 社会保険と社会扶助の関係②（社会保険の構造、社会扶助の構造） 6 確認テスト1・採点・解説・やり直し 7 社会保障の財源と費用①（社会保障給付費の推移、社会保障の財源） 8 社会保障の財源と費用②（社会保障と経済） 9 社会保障制度の体系 ①（年金保険制度の沿革と概要） 10 年金保険制度の具体的内容①（国民年金、厚生年金保険、共済年金） 11 年金保険制度の具体的内容②（年金保険制度をめぐる最近の動向） 12 確認テスト2・採点・解説・やり直し 13 社会保障制度の体系②（医療保険制度の沿革と概要、健康保険と共済組合制度） 14 医療保険制度の具体的内容①（国民健康保険、後期高齢者医療制度） 15 医療保険制度の具体的内容②（国民医療費と医療をめぐる最近の動向）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	社会保障
実務家教員授業	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	少子高齢化や労働環境の変化などによる現代社会の社会保障制度の課題について学ぶ。社会保障の概念、理念、対象について理解する。年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労災保険制度、雇用保険制度、社会福祉制度、生活保護制度、家族手当制度に関して、制度の目的、対象、給付内容、財源構成などに関して学び、特に年金保険制度と医療保険制度に関しては具体的内容も学ぶ。先進諸国における社会保障制度の概要を概観する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）について理解する。 2. 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程も含めて理解する。 3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 4. 社会保障制度の体系と概要について理解する。 5. 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解する。 6. 諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 ※少子高齢化や労働環境の変化などによる現代社会の社会保障制度の課題について学ぶ。社会保障の概念、理念、対象について理解する。年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度、労災保険制度、雇用保険制度、社会福祉制度、生活保護制度、家族手当制度に関して、制度の目的、対象、給付内容、財源構成などに関して学び、特に年金保険制度と医療保険制度に関しては具体的内容も学ぶ。先進諸国における社会保障制度の概要を概観する。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「社会保障論」
特記	
授業計画	16 社会保障制度の体系③（介護保険制度創設の経緯、介護保険制度の概要、介護保険制度をめぐる最近の動向） 17 確認テスト3・採点・解説・やり直し 18 社会保障制度の体系④（労働保険制度の沿革と概要、労働者災害補償保険） 19 社会保障制度の体系⑤（雇用保険、労働保険制度をめぐる最近の動向） 20 社会保障制度の体系⑥（社会福祉制度の沿革と概要、児童福祉） 21 社会保障制度の体系⑦（障害者福祉、母子・寡婦福祉、高齢者福祉） 22 確認テスト4・採点・解説・やり直し 23 公的保険制度と民間保険制度の関係①（民間保険に期待される役割、古典的な社会保険と民間保険の比較、民間保険の概要） 24 公的保険制度と民間保険制度の関係②（企業年金等） 25 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）①（少子高齢化の動向） 26 現代社会における社会保障制度の課題（少子高齢化と社会保障制度の関係を含む。）②（労働市場の変化と社会保障、少子化への取り組み） 27 諸外国における社会保障制度の概要①（欧州の社会保障制度） 28 諸外国における社会保障制度の概要②（アメリカの社会保障制度、東アジアの社会保障制度、社会保障制度の国際化） 29 確認テスト5・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	高齢者に対する支援と介護保険制度
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や介護需要について理解する。高齢者福祉制度の発展過程及び関連法規について学ぶ。介護の概念、対象、介護過程、介護予防について学び、高齢者支援に関する専門職の役割と実際について理解する。認知症ケア及び終末期ケアの基本的考え方と実際について学ぶ。介護保険法の概要及び専門職の役割と実際について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。 2. 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 3. 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 4. 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 5. 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。 6. 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 <p>※高齢者福祉の発展過程と現状及び現行の関連法規について理解されている。相談援助職として求められる高齢者介護に関する基本的な考え方が理解され、介護保険法における専門職の役割やネットワークングについて理解が深められている。</p>
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「高齢者福祉論：高齢者に対する支援と介護保険制度」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）①（高齢者の特性） 2 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）②（高齢者の特性） 3 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）③（少子高齢社会と高齢者） 4 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）④（少子高齢社会と高齢者） 5 高齢者福祉制度の発展過程①（高齢者保健福祉の発展と法体系） 6 高齢者福祉制度の発展過程②（高齢者保健福祉の発展と法体系） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律（高齢者虐待防止法）高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者の居住の安定確保に関する法律、権利擁護と成年後見制度、社会参加と生涯学習 9 介護保険法①（介護保険制度の全体像、介護保険制度の目的と理念） 10 介護保険法②（保険財政、保険者と被保険者、介護保険制度の最近の動向） 11 要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付 12 介護報酬、地域支援事業、介護保険事業計画、サービスの質を確保するための仕組み 13 介護支援専門員、居宅サービス、施設サービス、介護予防サービス、地域密着型サービス 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	高齢者に対する支援と介護保険制度
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	60時間
授業回数	30回
授業概要	高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や介護需要について理解する。高齢者福祉制度の発展過程及び関連法規について学ぶ。介護の概念、対象、介護過程、介護予防について学び、高齢者支援に関する専門職の役割と実際について理解する。認知症ケア及び終末期ケアの基本的考え方と実際について学ぶ。介護保険法の概要及び専門職の役割と実際について理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。）について理解する。 2. 高齢者福祉制度の発展過程について理解する。 3. 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。 4. 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。 5. 終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。 6. 相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 ※高齢者福祉の発展過程と現状及び現行の関連法規について理解されている。相談援助職として求められる高齢者介護に関する基本的な考え方が理解され、介護保険法における専門職の役割やネットワークングについて理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「高齢者福祉論：高齢者に対する支援と介護保険制度」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 16 介護保険法における組織及び団体の役割と実際（行政機関の役割、指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割）、地域包括支援センターの役割と実際 17 社会福祉協議会、ボランティア団体・非営利民間活動 18 高齢者支援の方法 19 介護保険法におけるネットワークングと実際（介護保険法における連携と実際） 20 介護保険法における専門職の役割と実際（高齢者を支援する専門職の役割と実際） 21 確認テスト3・採点・解説・やり直し 22 介護の概念や対象①（介護の概念と範囲、介護の理念） 23 介護の概念や対象②（利用者の理解） 24 介護過程（介護過程の概要、介護過程の展開技法）、介護予防 25 自立に向けた介護、家事における自立支援、身支度・移動・睡眠の介護 26 食事・口腔衛生の介護、入浴・清潔・排泄の介護 27 認知症ケア、終末期ケア 28 介護と住環境、近未来の高齢者福祉課題 29 確認テスト4・採点・解説・やり直し 30 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	障害者に対する支援と障害者自立支援制度
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	障害者の生活実態、社会情勢、福祉・介護需要について理解し、相談援助活動において求められる障害者の福祉や介護に関する法制度について学ぶ。特に障害者自立支援法における組織、団体、専門職の役割と実際に関して理解を深める。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要（地域移行や就労の実態を含む。）について理解する。 2. 障害者福祉制度の発展過程について理解する。 3. 相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。 ※特に障害者自立支援法における組織、団体、専門職の役割と実際が理解されており、多職種連携やネットワーキングに関する理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「障害者福祉論：障害者に対する支援と障害者自立支援制度」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 障害者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要（障害者を取り巻く社会情勢と生活実態） 2 障害者福祉制度の発展過程、障害者基本法（障害者にかかわる法体系） 3 身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、発達障害者支援法 4 高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、障害者の雇用の促進等に関する法律、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者の医療及び観察等に関する法律（障害者に関連する法律） 5 障害者自立支援法①（障害者自立支援法の理念・考え方、自立支援給付、支給決定のプロセス） 6 障害者自立支援法②（自立支援医療、補装具費、地域生活支援事業、障害福祉計画） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 障害者自立支援法における組織及び団体の役割と実際①（障害児に対する支援、苦情解決、審査請求、最近の動向） 9 障害者自立支援法における組織及び団体の役割と実際②（最近の動向、行政機関） 10 相談支援事業所の役割と実際（指定サービス事業者、国保連、労働機関、教育機関の役割） 11 障害者自立支援法における専門職の役割と実際①（相談支援専門員） 12 障害者自立支援法における専門職の役割と実際②（サービス管理責任者、生活支援員、居宅介護従事者） 13 障害者自立支援法における多職種連携、ネットワーキングと実際（多職種連携の意味、医療・教育・労働関係機関との連携、多職種連携の方法と実際） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要、児童・家庭福祉制度の発展過程を理解する。そのうえで、児童の権利、児童・家庭福祉に関する法体系を理解する。また、児童・家庭福祉制度における組織や団体、専門職の役割を理解し、それぞれの連携方法、実態について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（子育て、一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）の実態を含む。）について理解する。 2. 児童・家庭福祉制度の発展過程について理解する。 3. 児童の権利について理解する。 4. 相談援助活動において必要となる児童・家庭福祉制度や児童・家庭福祉に係る他の法制度について理解する。 ※特に児童の権利について理解され、児童・家庭福祉制度及び支援の理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「児童福祉論：児童・家庭に対する支援と児童家庭福祉制度」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。）と実際①（現代社会と子ども家庭） 2 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待及び家庭内暴力（D.V）、地域における子育て支援及び青少年育成の実態を含む。）と実際②（子ども家庭福祉） 3 児童・家庭福祉制度の発展過程、児童の定義と権利 4 児童福祉法 5 児童虐待の防止等に関する法律（児童虐待防止法）、配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（D.V法） 6 母子及び寡婦福祉法、母子保健法、売春防止法 7 児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当等の支給に関する法律（子ども家庭にかかわる福祉・保健） 8 確認テスト1・採点・解説・やり直し 9 次世代育成支援対策推進法、少子化社会対策基本法（子育て支援） 10 児童の社会的養護サービス 11 児童相談所の役割と実際 12 児童・家庭福祉制度における専門職の役割と実際 13 児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際（子ども家庭への援助活動）、児童・家庭福祉制度における多職種連携、ネットワーキングと実際（地域援助活動とネットワーク） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	低所得者に対する支援と生活保護制度
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要を理解し、そのうえで生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。また、自立支援プログラムの意義と実際について理解し、低所得者に対する対策について学ぶ。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 2. 相談援助活動において必要となる生活保護制度や、生活保護制度に係る他の法制度について理解する。 3. 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。 ※特に生活保護制度の概要と実際及び低所得者支援の理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「公的扶助論：低所得者に対する支援と生活保護制度」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際（公的扶助の概念と範囲、意義と役割、現代の貧困、低所得者問題） 2 公的扶助制度の歴史（海外の歴史、日本の歴史） 3 生活保護制度①（生活保護制度の仕組み、基本原理、基本原則、生活保護の種類と内容①） 4 生活保護制度②（生活保護の種類と内容②、保護施設、被保護者の権利と義務、不服申し立てと訴訟、生活保護の財源・予算） 5 生活保護制度③（最低生活保障水準と生活保護基準） 6 生活保護制度④（生活保護の動向） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 低所得者対策、低所得者への住宅政策（生活福祉資金貸付制度、社会手当制度） 9 ホームレス対策 10 生活保護制度における組織及び団体の役割と実際（国・都道府県・市町村の役割） 11 福祉事務所の役割と実際 12 生活保護制度における専門職の役割と実際（生活保護受給者・低所得者に対する相談援助活動）生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際（他機関・他職種との連携・協働） 13 自立支援プログラムの意義と実際 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	保健医療サービス
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	医療保険制度、診療報酬制度、保健医療サービスの概要を学ぶ。保健医療サービスにおける専門職の役割と実際について理解し、専門職との連携について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 相談援助活動において必要となる医療保険制度（診療報酬に関する内容を含む。）や保健医療サービスについて理解する。 2. 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。 ※保健医療サービス及び専門職の役割が理解されており、相談援助活動において必要となる多職種協働についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「保健医療サービス」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健医療サービスの概要①（保健医療サービスとその構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充） 2 保健医療サービスの概要②（医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題、医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士） 3 保健医療サービスの概要③（医療法による医療施設の機能・類型、保健医療政策による医療施設の機能・類型） 4 保健医療サービスの概要④（診療報酬における医療施設の機能・類型、介護保険法における施設等の機能・類型、在宅支援のシステム） 5 保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割①（医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み、業務の内容①） 6 保健医療サービスの連携と医療ソーシャルワーカーの役割②（業務の内容②） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際①（保健医療サービス専門職の概観） 9 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際②（保健医療サービス専門職の基本的姿勢、保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際） 10 医療保険制度（医療保険制度の概要、介護保険制度と介護報酬の概要、自立支援医療・公費負担医療制度の概要）、診療報酬（診療報酬制度の概要） 11 保健医療サービス関係者との連携と実際①（保健医療の専門職との連携方法と基礎知識、チームケア実現のための制度や連携機関・団体） 12 保健医療サービス関係者との連携と実際②（保健医療の専門職との連携の実際、地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識） 13 保健医療サービス関係者との連携と実際③（地域ケアネットワークの実際、地域におけるNSTの概念（医食同源）） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	就労支援サービス	
実務家教員授業	○	
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース	
履修年次	1年次	
開講学期	前期	
科目区分	必須	
授業方法	講義	
授業時間	15時間	
授業回数	8回	
授業概要	雇用・就労の動向と労働施策について学び、各種の就労支援制度について理解する。就労支援に係る組織、団体、専門職の役割と実際について学び、相談援助活動において必要とされる就労支援分野との連携について理解する。	
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る	
達成目標	1. 相談援助活動において必要となる各種の就労支援制度について理解する。 2. 就労支援に係る組織、団体及び専門職について理解する。 3. 就労支援分野との連携について理解する。 ※就労支援制度に係る組織、団体、専門職の役割及び就労支援分野との連携について理解されている。	
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「就労支援サービス」	
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。	
授業計画	1	雇用・就労の動向と労働施策の概要①（労働と職業、「働く者」の立場）
	2	雇用・就労の動向と労働施策の概要②（労働市場の変化、労働に関する法律と制度）
	3	就労支援制度の概要（障害者と就労支援、支援の対象者、障害者の就労の現状、就労支援制度）
	4	就労支援に係る組織、団体の役割と実際（組織・団体の役割、専門職の役割、民間の取組み、諸外国の取組み）
	5	就労支援に係る専門職の役割と実際（低所得者と就労支援、支援の対象者、低所得者の就労の現状、就労支援制度、組織・団体の役割、専門職の役割、今後の展望）
	6	就労支援分野との連携と実際（連携・ネットワーキング、就労支援のあり方）
	7	確認テスト1・採点・解説・やり直し
	8	まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。	
備考		

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	権利擁護と成年後見制度
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	30時間
授業回数	15回
授業概要	相談援助活動と日本国憲法、民法、行政法等との関わりについて理解する。権利擁護に関する組織、団体の役割と権利擁護活動の実際について学ぶ。成年後見制度及び日常生活自立支援事業の概要について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わりについて理解する。 2. 相談援助活動において必要となる成年後見制度（後見人等の役割を含む。）について理解する。 3. 成年後見制度の実際について理解する。 4. 社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症などの日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解する。 ※権利擁護の概要と実際について理解されている。特に成年後見制度及び日常生活自立支援事業についての理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「権利擁護と成年後見制度」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	1 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり①（相談援助活動において想定される法律問題, 日本国憲法の理解） 2 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり②（行政法の理解） 3 相談援助活動と法（日本国憲法の基本原理、民法・行政法の理解を含む。）との関わり③（民法の理解、社会福祉関連法の理解） 4 成年後見制度①（成年後見の概要・保佐の概要・補助の概要） 5 成年後見制度②（申立ての流れ、任意後見制度、成年後見人等の義務と責任、成年後見制度の最近の動向と課題） 6 日常生活自立支援事業（日常生活自立支援事業の概要、日常生活自立支援事業と成年後見制度との連携） 7 成年後見制度利用支援事業（成年後見制度利用支援事業の概要、その他の財政支援の活用） 8 確認テスト1・採点・解説・やり直し 9 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際①（権利擁護にかかわる組織・団体） 10 権利擁護に係る組織、団体の役割と実際②（権利擁護にかかわる専門職の役割） 11 権利擁護活動の実際①（成年後見活動の実際） 12 権利擁護活動の実際②（被虐待児への対応の実際、高齢者虐待への対応の実際、アルコール等依存症への対応の実際） 13 権利擁護活動の実際③（非行少年への対応の実際、ホームレスの人への対応の実際、多問題重複ケースへの対応の実際） 14 確認テスト2・採点・解説・やり直し 15 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	更生保護制度
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	前期
科目区分	必須
授業方法	講義
授業時間	15時間
授業回数	8回
授業概要	更生保護制度の概要及び保護監察官や保護司など更生保護制度の担い手について学ぶ。更生保護制度における関係機関・団体との連携について理解する。
授業の進め方	テキストによる講義と問題演習により、知識の定着を図る
達成目標	1. 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。 2. 更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。 3. 刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。 ※相談援助活動において必要とされる更生保護制度について理解されている。関係機関・団体との連携の在り方について理解が深められている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「更生保護制度」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（介護福祉士・社会福祉士等の資格を有し、福祉施設等の現場にて20年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 更生保護制度の概要①（刑事司法のなかの更生保護、仮釈放等、保護観察、生活環境の調整） 2 更生保護制度の概要②（更生緊急保護、更生保護における犯罪被害者等施策、恩赦、犯罪予防活動） 3 更生保護制度の担い手（保護監察官、保護司、更生保護施設、民間協力者） 4 更生保護制度における関係機関・団体との連携（裁判所とのかかわり、検察庁とのかかわり、矯正施設との連携、公共職業安定所・福祉事務所等とのかかわり） 5 医療観察制度の概要（医療観察法に基づく処遇制度の創設、生活環境の調査、生活環境の調整、地域社会における処遇、関係機関等との連携） 6 更生保護における近年の動向と課題（更生保護の実際と今後の展望） 7 確認テスト1・採点・解説・やり直し 8 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助演習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	150時間
授業回数	75回
授業概要	相談援助実習を行う前には、基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得する。相談援助職として必要な自己覚知について理解する。相談援助事例を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。相談援助実習後には、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように集団指導並びに個別指導を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 ※相談援助に関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。相談援助実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助演習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助の基本 2 自己覚知 3 基本的なコミュニケーション技術の習得① 4 基本的なコミュニケーション技術の習得②（ロールプレイング） 5 基本的な面接技術の習得①（面接の意義、構成要素） 6 基本的な面接技術の習得②（準備の段階） 7 基本的な面接技術の習得③（展開の段階 インテーク面接） 8 基本的な面接技術の習得④（展開の段階 展開中期） 9 基本的な面接技術の習得⑤（終結の段階） 10 基本的な面接技術の習得⑥（生活場面面接） 11 確認テスト・採点・解説・やり直し 12 相談援助事例の活用①（社会的排除の事例） 13 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導①（インテーク・アセスメント） 14 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導②（プランニング・支援の実施・モニタリング） 15 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導③（効果測定・終結とアフターケア）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助演習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	150時間
授業回数	75回
授業概要	相談援助実習を行う前には、基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得する。相談援助職として必要な自己覚知について理解する。相談援助事例を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。相談援助実習後には、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように集団指導並びに個別指導を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 ※相談援助に関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。相談援助実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助演習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 相談援助事例①の実技指導に含まれる内容（アウトリーチ、チームアプローチ） 17 相談援助事例①の実技指導に含まれる内容（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発） 18 相談援助事例の活用②（児童・高齢者虐待の事例） 19 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導④（インテーク・アセスメント） 20 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑤（プランニング・支援の実施・モニタリング） 21 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑥（効果測定・終結とアフターケア） 22 相談援助事例②の実技指導に含まれる内容（アウトリーチ、チームアプローチ） 23 相談援助事例②の実技指導に含まれる内容（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発） 24 相談援助事例の活用③（家庭内暴力（D. V）の事例） 25 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑦（インテーク・アセスメント） 26 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑧（プランニング・支援の実施・モニタリング） 27 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑨（効果測定・終結とアフターケア） 28 相談援助事例③の実技指導に含まれる内容（アウトリーチ、チームアプローチ） 29 相談援助事例③の実技指導に含まれる内容（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発） 30 レポート1・まとめ
成績評価方法 （試験実施方法）	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助演習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	150時間
授業回数	75回
授業概要	相談援助実習を行う前には、基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得する。相談援助職として必要な自己覚知について理解する。相談援助事例を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。相談援助実習後には、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように集団指導並びに個別指導を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 ※相談援助に関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。相談援助実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助演習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	31 相談援助事例の活用④（低所得者の事例） 32 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑩（インテーク・アセスメント） 33 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑪（プランニング・支援の実施・モニタリング） 34 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導 ⑫（効果測定・終結とアフターケア） 35 相談援助事例④の実技指導に含まれる内容（アウトリーチ、チームアプローチ） 36 相談援助事例④の実技指導に含まれる内容（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発） 37 相談援助事例の活用⑤（ホームレスの事例） 38 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑬（インテーク・アセスメント） 39 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑭（プランニング・支援の実施・モニタリング） 40 相談援助事例⑤の実技指導に含まれる内容（アウトリーチ、チームアプローチ） 41 相談援助事例⑤の実技指導に含まれる内容（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発） 42 相談援助事例の活用⑥（その他の危機状態にある相談援助事例（権利擁護活動を含む。）） 43 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑮（インテーク・アセスメント） 44 相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導⑯（プランニング・支援の実施・モニタリング） 45 相談援助事例⑥の実技指導に含まれる内容（アウトリーチ、チームアプローチ）
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助演習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	150時間
授業回数	75回
授業概要	相談援助実習を行う前には、基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得する。相談援助職として必要な自己覚知について理解する。相談援助事例を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。相談援助実習後には、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように集団指導並びに個別指導を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 ※相談援助に関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。相談援助実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助演習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	46 相談援助事例⑥の実技指導に含まれる内容（ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発） 47 レポート2・まとめ 48 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導①（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握①） 49 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導②（地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握②） 50 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導③（地域福祉の計画①） 51 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導④（地域福祉の計画②） 52 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑤（ネットワーキング①） 53 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑥（ネットワーキング②） 54 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑦（社会資源の活用） 55 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑧（社会資源の調整） 56 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑨（社会資源の開発①） 57 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑩（社会資源の開発②） 58 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑪（サービスの評価①） 59 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を活用した実技指導⑫（サービスの評価②） 60 レポート3・まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助演習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	150時間
授業回数	75回
授業概要	相談援助実習を行う前には、基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得する。相談援助職として必要な自己覚知について理解する。相談援助事例を活用し総合的かつ包括的な援助について実践的に習得する。具体的な相談援助場面及び相談援助の過程を想定した実技指導を行う。相談援助実習後には、個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように集団指導並びに個別指導を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ①総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。 ②個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導（ロールプレイング等）を中心とする演習形態により行うこと。 ※相談援助に関する知識と技術を専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる。相談援助実習後には個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助演習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	61 相談援助実習後 グループワーク① 62 相談援助実習後 グループワーク② 63 相談援助実習後 グループワーク③ 64 相談援助実習後 グループワーク④ 65 相談援助実習後 グループワーク⑤ 66 相談援助実習後 グループワーク⑥ 67 相談援助実習後 グループワーク⑦ 68 相談援助実習後 グループワーク⑧ 69 相談援助実習後 グループワーク⑨ 70 相談援助実習後 グループワーク⑩ 71 相談援助実習後 グループワーク⑪ 72 相談援助実習後 グループワーク⑫ 73 相談援助実習後 グループワーク⑬ 74 レポート4 75 まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助実習指導
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	90時間
授業回数	45回
授業概要	相談援助実習に向けて予備知識、動機づけ等の準備を行ない、実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解する。実習におけるプライバシーの保護と守秘義務について理解する。実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関して学び、実習終了後は実習総括レポートを作成し、実習の評価全体総括会を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助実習の意義について理解する。 2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ※相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助実習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導及び集団指導の意義（実習記録ノートの利用方法） 2 実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解（個人情報保護法の理解を含む。） 3 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解①（第一期 実習） 4 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解②（第一期 実習） 5 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解① 6 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解② 7 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解① 8 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解② 9 確認テスト・採点・解説・やり直し 10 「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 11 現場体験学習及び見学実習① 12 現場体験学習及び見学実習② 13 現場体験学習及び見学実習③ 14 現場体験学習及び見学実習④ 15 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成①
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助実習指導
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	90時間
授業回数	45回
授業概要	相談援助実習に向けて予備知識、動機づけ等の準備を行ない、実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解する。実習におけるプライバシーの保護と守秘義務について理解する。実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関して学び、実習終了後は実習総括レポートを作成し、実習の評価全体総括会を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	1. 相談援助実習の意義について理解する。 2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。 3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ※相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助実習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	16 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成② 17 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成③ 18 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成④ 19 巡回指導① 20 巡回指導② 21 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成①（第一期実習） 22 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成②（第一期実習） 23 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成③（第一期実習） 24 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成④（第一期実習） 25 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成⑤（第一期実習） 26 レポート評価・解説・まとめ 27 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解③（第二期実習） 28 実際に実習を行う実習分野（利用者理解含む。）と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解④（第二期実習） 29 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解③ 30 実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解④
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助実習指導
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	通年
科目区分	必須
授業方法	演習
授業時間	90時間
授業回数	45回
授業概要	相談援助実習に向けて予備知識、動機づけ等の準備を行ない、実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関して理解する。実習におけるプライバシーの保護と守秘義務について理解する。実習記録ノートへの記録内容及び記録方法に関して学び、実習終了後は実習総括レポートを作成し、実習の評価全体総括会を行う。
授業の進め方	テキスト講義と実践的な演習により、「知る」から「身に付く」へステップアップを図る
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助実習の意義について理解する。 2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。 ※相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できている。
教科書	中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 「相談援助実習」
特記	実務家教員は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 31 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成⑤（第二期 実習） 32 実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成⑥（第二期 実習） 33 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解③ 34 実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解④ 35 巡回指導③ 36 巡回指導④ 37 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成⑥（第二期実習） 38 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成⑦（第二期実習） 39 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成⑧（第二期実習） 40 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成⑨（第二期実習） 41 レポート評価・解説・まとめ 42 実習の評価全体総括会① 43 実習の評価全体総括会② 44 実習の評価全体総括会③ 45 実習の評価全体総括会④
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験及びレポートにより評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容
授業科目	相談援助実習
実務家教員授業	○
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース
履修年次	1年次
開講学期	後期
科目区分	必須
授業方法	実習
授業時間	180時間
授業回数	23日
授業概要	相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術を理解し、実践的な技術等を体得する。関連分野の専門職との連携のあり方や内容を理解する。
授業の進め方	有識者の指導を基により実践的な知識を学ぶ
達成目標	<p>1. 相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践的な技術等を体得する。</p> <p>2. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。</p> <p>3. 関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。</p> <p>※上記が理解できており、習得できている。相談援助に係る知識と技術について実践的に体得できている。</p>
教科書	実習記録ノート
特記	実務家教員のうち実習担当者は、法令に基づく社会福祉士養成施設の教員要件を満たし、授業科目に関連する実務経験（社会福祉士の資格を有し、福祉施設等の現場にて5年以上）を有する者。また、実習指導者は福祉施設の現役福祉職員。
授業計画	<p>第1週（1～6日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際に関する理解。 利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成。 <p>第2週（7～12日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成。 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成。 <p>第3週（13～18日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際に関する理解。 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価に関する理解。 <p>第4週（19～23日）</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解。 当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。
成績評価方法（試験実施方法）	実習指導者と実習担当者が実習評価表に基づき評価したものと、実習記録や出席状況などを加味し、総合的に評価する。
備考	

授業計画書（シラバス）

タイトル	内容	
授業科目	社会福祉総合演習	
実務家教員授業		
学部・学科	社会福祉学科 社会福祉士（夜間1年制）コース	
履修年次	1年次	
開講学期	後期	
科目区分	選択	
授業方法	講義	
授業時間	20時間	
授業回数	10回	
授業概要	社会福祉士の職業に必要な専門的な知識を総体的に整理する。相談援助職として支援に結び付けるための制度概要の理解、関連機関及び関連職種についての知識を定着させる。	
授業の進め方	問題演習と解説に加え、必要に応じて復習講義を行い、より高度な知識定着を図る	
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 相談援助職において必要となる各種の制度について理解する。 2. 相談援助に係る組織、団体及び専門職について理解する。 3. 各種相談支援分野との連携について理解する。 ※社会福祉士として相談援助に係る組織、団体、専門職の役割及び各種相談支援分野との連携について理解されている。	
教科書	オリジナル講義レジュメ 中央法規出版「過去問解説集」「ワークブック」	
特記		
授業計画	1	人体の構造と機能及び疾病、心理学理論と心理的支援、社会理論と社会システム、社会調査の理解
	2	相談援助の基盤と専門職、理論と方法の理解
	3	現代社会と福祉、地域福祉の理論と方法の理解
	4	高齢者、障害者に対する支援と、介護保険制度、障害者自立支援制度の理解
	5	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度の理解
	6	低所得者に対する支援と生活保護制度、就労支援サービスの理解
	7	保健医療サービス、福祉サービスの組織と経営の理解
	8	社会保障、福祉行財政と福祉計画の理解
	9	権利擁護と成年後見制度、更生保護制度の理解
	10	まとめ
成績評価方法 (試験実施方法)	出席と試験により評価する。	
備考		